

前進！やまなしスタートアップ構想

STARTUP

YAMANASHI

山梨県

構想の趣旨、スタートアップを志す皆様へ



本県はコロナ対策において全国をリードする様々な対策を講じてきておりますが、次の段階としてコロナ後には他地域に先んじて大きな成長を遂げようと意図しています

私は、新たな事業領域を開拓し成長を遂げていくスタートアップには、経済発展のみならず地域全体を活性化する強力なパワーがあり、本県が目指す「高付加価値化」や「ハイクオリティ」イメージを増幅させるうえで最良のパートナーになっていただけるものと考えています

事業環境を言えば、本県は本州の中央に位置し、中部横断自動車道や東富士五湖道路の開通、リニア交通新幹線の整備により我が国の新たな交通の要衝に向け急速に進展、更には水素・燃料電池、医療機器、半導体、ロボット等の先端的産業が発展、研究機関や高い技術力を持つサプライヤーが数多く存在するなど新規事業の拠点としての利点を有しています

令和4年度からは、従来の取り組みを刷新しスタートアップ支援事業を大幅に強化したうえで、県を中心に支援機関が一体となりスタートアップを集中的連続的に支援することとし、これらの取り組みを内容とする「構想」をここに策定いたしました

志ある皆様の夢を実現し、ともに本県も成長していけるよう、全力で御支援いたしますので、是非とも山梨への扉を開いていただきますようお願い申し上げます



山梨県知事 長崎幸太郎

1 本県の特長（1）地理的優位性、交通のクロスポイント

- 本県は元来、本州の中央に位置する地理的優位性を持つ
- 更に、中央自動車道に加え中部横断自動車道（静岡山梨間）や東富士五湖道路の開通、リニア中央新幹線整備により国内外どこにでも進出可能な新たな交通のクロスポイントに
- 工場・物流拠点が次々と進出中、立地問合わせも大幅に増加
- スタートアップの新たな事業拠点として好適



1 本県の特長（２）先端的産業の発展、有力な研究機関・サプライヤー



① 水素・燃料電池

ア) 水素「県が水素をつくる」

- 再生可能エネルギーの水素製造技術をいち早く開発・実証
- カーボンニュートラル実現に向けた国2兆円基金事業の水素部門（NEDO）では自治体唯一の採択決定
- 設備のパッケージ化で普及～海外展開を視野に入れる
- スタートアップのエクセルギーパワーシステムズ（蓄電池）、ヒラソルエネルギー（太陽光発電管理）にも出資

イ) 燃料電池・関連インフラ

- 世界的研究成果を有する山梨大学、日本を代表する評価機関のFC-Cubic、水素ステーション評価機関HySUTなど研究評価機関をフルラインアップで集積
- 県と各機関は技術助言が受けられる連携協定を締結済み
- 県と山梨大学は産業展開でも協調、研究成果の地域産業化や無料の人材養成講座などを実施
- 最先端分野ながら有力な研究機関、サプライヤーが既に存在

県と山梨大学の電力を活用した水素製造による水素製造プロセス

大規模PEM型水電解装置の開発、熱需要の脱炭素化実証

事業の目的・意義 ① 再生可能エネルギーを活用した国内水素製造拠点を確立するとともに、先行する海外市場を確保するために、固体高分子（PEM）型水電解装置コストを2030年までに5万円/kWhまで引き下げることを目指す。 ② そのため、既存事業等との知見を活用し、PEM型水電解装置の大型化・モジュール化、耐久性と電解性に優れた装置、水素ボイラーの燃焼効率向上等に関する技術開発を行う。 ③ また、16MW級の水電解装置を製造設備とともにモジュール化して、パッケージとして顧客家に設置、水素ボイラーを用いて熱の脱炭素化に向けた実証を行う。	
参加団体 山梨県企業局、東京電力ホールディングス株式会社・東京電力エナジーパートナー株式会社、東レ株式会社、日立造船株式会社、シーメンス・エナジー株式会社、三井工業株式会社、株式会社旭地テック	事業規模等 ① 事業規模：約140億円 ② 支援額等：約100億円 ③ 補助率等：2/3 → 1/2（のべ補助率は10%）
事業期間 2021年度～2025年度（5年間）	
事業イメージ 	

本県の取り組みは国からも高い評価を得ている



山梨大学燃料電池ナノ材料研究センター
水素燃料電池の世界的研究機関、人材要請講座で県内企業に専門人材を供給



国内最高水準の燃料電池評価機関FC-Cubicが東京から移転決定（R4移転予定）

水素・燃料電池など新エネルギーのスタートアップは「**すべてが揃う全国最先端の**」山梨で

メディカル・デバイス・コリドー推進センターが稼働しました

14-00000

-
- Three men in dark suits are standing indoors, holding a large, vertical wooden plaque. The man on the left is holding the top of the plaque, the man in the center is holding the middle, and the man on the right is holding the bottom. The plaque has Japanese text written on it. In the background, there is a wall with some framed text or a poster.

A map of Shizuoka Prefecture showing the expanded Comprehensive Special Zone in green. The green area includes the cities of Maibara, Numazu, and Fushida, as well as parts of the surrounding areas. Other cities shown in yellow include Maibara, Numazu, Fushida, and others. The map also shows the surrounding prefectures of Aichi, Gifu, and Yamanashi.

緑色が本県への総合特区拡大区域

- 緑色が本県への総合特区拡大区域

医療機器のスタートアップは「ニーズに即した支援が受けられる」山梨で

1 本県の特長（２）先端的産業の発展、有力な研究機関・サプライヤー



③半導体・ロボット

- 半導体では東京エレクトロンテクノロジーソリューションズ（株）が立地（韮崎市）
- ロボットではファナック（株）が立地（忍野村、山中湖村）
- これら世界的メーカーの立地により県内全域にハイレベルなサプライヤーが多数存在
- 新技術に取り組む有望企業も県内に着々増加
- 新進気鋭の企業や有力サプライヤーは様々な事業展開でスタートアップの製品開発・製造を実現する力強い味方に
- ODM・OEMは得意中の得意、ファブレス企業との連携やオープンイノベーションに好適な企業が多数存在

①～③の水素・燃料電池、医療機器、半導体・ロボットをはじめとする、
先端的産業のスタートアップは「**チャレンジの受容環境が整う**」山梨で

2 支援体制の強化



- 意欲ある組織・機関を会員化し、体制再構築のうえ最適な支援を提供

